

入選 岐阜県 中川 悠 様（高校生 女性）

私の祖母は農業を営んでいます。しかし祖母は足腰が悪く仕事をするのがとても大変そうです。祖母は私にこっそりお菓子をくれたり、風邪を引いたときはおかゆを作ってくれたり冷たい水をもってきてくれたりと小さな気づかいのできる優しい人です。私は昔からおばあちゃん子で祖母が大好きです。だから私は祖母にさらに年をとってから働きすぎで足腰が痛いという生活はしてほしくないと思っています。農業というのは考えているよりも根気と体力が要る大変な仕事です。若い私でも農業の手伝いをすると、かなり疲れます。だから私より何倍も年をとっている祖母が農業を続けていることは尊敬します。しかし祖母も年です。最近顔をしかめて腰を痛そうにしている姿をよく見ます。農家である祖母は農家を続けないとお金も入ってこないし生活も厳しくなります。だから私は体が弱っているのにこれから先も祖母は働き続けられないといけないのかと考えていました。

ある日学校の授業で年金についての話を聞きました。年金と言われてもどんなものかよく分からないしあまり興味もなかったのもうそまで真剣に聞くつもりはありませんでした。

「公的年金制度に加入して、保険料を納め続けることで年をとったとき、病気やケガで障害が残ったとき、家族の働き手が亡くなったときに年金を受け取ることができます。」

この言葉を聞いて祖母の顔が浮かびました。祖母もこの年金に加入しているのだろうか。そう思いました。年金についての関心が一気に上がりそれから集中して話を聞きました。聞き終えるとこの公的年金という制度に素直に感心しました。私の祖母にとっても優しい制度だと思いとても印象に残っています。年金は働けなくなった人たちを日本中でいたわろうという日本の優しさがあらわれた制度だと思いました。この年金という制度のおかげで祖母が私を支えてくれたように、私を含む日本中の人で祖母のような人たちの生活を支えることができるんだと、素晴らしいと思いました。だから私も20歳になったら、「お疲れ様です。」「ありがとう。」の気持ちを込めて年金をきちんと納めようと決めました。

私は年金の話を聞いたその日祖母と話をしました。年金に加入しているか聞いてみるとやはり加入していました。

「人生には何があるか分からなくて、お金は大切にするんやぞ。」

これは祖母の口癖です。年金の話聞いた後だからかいつもと違うように聞こえました。それからずっと不思議に思っていた祖母が足腰が痛いのに農業を続ける理由を聞いてみました。祖母はこう言いました。

「ばあちゃんが一番の農家になってやると思ってここに来たんやぞ。おめえ達の欲しい物も買ってやりたいし。」

あんなにつらい農業でも祖母はこの仕事が好きだということが分かりました。そしてまた私たちのことを考えてくれている祖母の思いやりの心が伝わってきました。そしてもう一言、

「でもばあちゃんも年やで体も思うように動かん。そしたら年金に助けてもらわんと。」

とにっこり笑って言いました。このとき私は年金というものが祖母にとってとても頼もしいものに見えました。

年金は毎月払うというのは大変です。もしかしたら年金は自分のためにならないかもしれません。でもお金が戻ってくるこないに関係なくひとつの人助けだと思って加入するというのもいいんじゃないかと思います。

